二〇二四年度

沖縄大学　一般選抜（中期）

「国　語」

沖縄大学　二〇二四年度　一般選抜　（中期）

国語

※答はすべて解答用紙に書きなさい。

【問題】つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

演題に少し変な題名を掲げましたけれども、ヤポネシアということばは、今までおそらく誰も使わなかったはずです。というのは、わたしはそれをどこかから借りてきたのではなくて、自分で組み合わせてこしらえたのですから。ヤポネシアと言うと、おそらく、ポリネシアだとかインドネシア、あるいはミクロネシア、メラネシアなどという名前が頭に浮かぶんじゃないかと思いますが、【　A　】、それと似たような意味でわたしはヤポネシアということばを使いたいのです。太平洋の地図をみる時、たいていわたしたちは、アジア大陸がまん中になった地図をみるわけですが、それをずらして、太平洋をまん中にしてみますと、まず、当初は何もみえないほどですが、よくみると、ポリネシアなどはもちろんですが、もう一つ似たような島の群があり、それに「日本」という名前がついているのです。わたしはいっそのことそれにヤポネシアという名前をつけてみたらどうだろうかというのが、そもそもこの発想のはじまりなのです。

日本という名前がついているのに、（1）どうしてヤポネシアで呼びたいのかと言いますと、わたしは、「もう一つの日本」というようなことを考えたいからです。日本についてのイメージはそれぞれにいろいろあると思いますが、わたしのそれはどうしても「日の本」と言う、どう言ったらいいか、何か強く意識する対象があっての結果で、もとからの言い表わし方ではないような気がするのです。お隣りの大陸も世界の中心の国だという意識があって、自分の国の名前を「中国」としているようですが、日本という漢字の組み合わせもやはり大陸を意識し、太陽の中心だという、非常に①キンチョウした状態があって、「日の本」だというふうにつけているような気がします。

【　B　】この日本という国の、今までの歴史をふり返ってみますと、どうしても大陸の方にばかり向いていたのではないかという気がするのです。文字はもちろん学問や宗教も大陸の方から入ってきています。たとえ日本の中で、また別なかたちになったかもしれませんが、とにかく大陸の影響のもとにすごしてきたという面は否定することができないと思います。それではこの大陸から少し離れたところ、あるいは太平洋のまん中の島々の本来のものは何かということになってくると、どうもはっきりしません。その上さらに、近世と言いますか徳川時代と言ってもいいと思うのですが、その頃に成立したと思われる武士道的な②リンリ感や日常生活等が一緒になって出来上がった日本人の③支柱みたいなものがつけ加えられるのです。そういうものにまぶされたものが、わたしの日本というもののイメージなのです。

それと、さきごろ明治百年ということが言われましたが、明治以後の日本の歩んできた④筋道を一口で言ってしまうことはできないとしても、明治維新は、いわゆる西南雄藩と言われた日本の西南部分の下級武士たちが中心になって動かされてきたものだと思いますが、そういう状況がもとになって現在の日本が出来上がってきているというイメージがまたその上につけ加わってきます。そして、そ

れには何かこう固い画一性があるような気がしてなりません。みんな一色に塗りつぶされてしまうという息づまるような何かがあって、わたしはそこからどうしても抜け出したいという気持がおさえられないのです。しかし、いくら抜け出したくても抜け出すことはできないでしょう。外国旅行をしてもだめだと思いますし、またたとえこの日本を逃れてよその国に亡命しても、やはり日本の⑤ワクの中から逃れることはできないんではないか。【　C　】抜け出したい。

さて、この抜け出せない日本からどうしても抜け出そうとするなら、日本の中にいながら日本の多様性というものを見つけていくより仕方がないんではないか。その日本の多様性というのは、ちょっと片寄った考え方かもしれませんが、今申し上げたようなイメージの日本とはちがった、もう一つの日本、つまりヤポネシアの発想の中で日本の多様性を見つけるということです。そういう気持でみますと、日本というところもかなり多様性を持っている国ではないか。通りいっぺんの旅行などでは、日本国中どこに行っても同じ感じがするかもしれませんが、よく見れば、たとえば方言一つとってみても、日本というところはたいへん多様性を持った国だということに気づくはずです。仮名というのは、われわれがしゃべっている日本語を書き表わすことができるはずのものですが、いわゆる共通語と言われるものには可能であっても、方言ということになると、とても片仮名や平仮名では書き表わすことができません。これは、何も沖縄や奄美のことばだけではなく、方言をそのまま書き表わそうということになると、どの地方のものでもたいへん困難だと思います。

さて、その多様性を言うとしても、ある地方は他の地方よりそれが非常に強い。多様性を強く匂わせているんじゃないか。そういうことを思います。それは東北と琉球弧じゃないかと思うのです。もうひとつの日本であるヤポネシアの探険には、この東北と琉球弧、なかんずく琉球弧に重要な手がかりがあるのだと思えてならないのです。

琉球弧ということばは、地理学上使われていることばで、日本の地図をごらんになるとわかりますが、日本列島は、大きな三つばかりの弓なりのかたちをしておりますが、そういう弓なりになった島々のかたちを弧と言っているようで、ことに日本の島のかたちは、千島弧と本州弧と琉球弧の三つの部分から成る⑥典型的な弧状を示しております。琉球弧はまた別に南西諸島、琉球列島、または琉球などと呼ばれ、それぞれにニュアンスがちがいますが、(2) わたしにはどうも琉球弧という言い方をするといちばん落ちつくのです。つまり奄美諸島と沖縄島を中心にした沖縄諸島、宮古諸島、それに石垣島を主島にした八重山諸島などをひっくるめてわたしは琉球弧と言いたいのです。沖縄と言うと、どうも奄美が落ちてしまうし、宮古や八重山も、時によっては含まれてきません。琉球とだけ言った場合には、奄美を含めるかどうかに難点が出てくるので、地理学上での琉球弧ということばが⑦包括的でもあり⑧テキセツだと思うのです。

【　D　】(3) 多様性を持ったいろいろな地方の中でもことに強く独自性を持った地方が琉球弧であり東北ではないかというのがわたしの考えですが、それはわたしがその琉球弧の中の奄美の一つの島に十五年ほど住んで生活してきた⑨挙句に考えだせたことでしょう。まあ最初にも言いましたような、日本を抜け出したいという気持もその中で強くなってきたわけですが、どうも琉球弧と東北というところは、一般的な日本のイメージの中に素直に入らないのではないかという気持がでてきたのです。それで、⑩大雑把なやり方ではありますが、少し歴史を調べてみました。そうすると、日本という国は三つの弧を合わせたところの上に成り立って、そこに住む人たちは、同じことばを使い、同じ生活文化を持ち、いわばひとつの民族と言ってもいいようなものになっていると思うんですけれ

ども、その歴史の展開の仕方に、ある片寄りを持っていたのではないかということに気づいたのです。つまり日本という国の、国はじめから現在に至るまで、政治の中心的な舞台になったところは九州から関東までではないかと言うことです。

これはもうわたしがいろいろなことを言うまでもなく、九州から関東までの地域が日本の国の歴史の舞台になってきたんではないでしょうか。ですから、日本という国についての従来の一般的なイメージは、そういう地域を背景にして出来上がってきているような気がするのです。ことに、明治以後の百年間というものは、再び九州が大きな中心勢力となった西南の部分が、今の日本の方向づけをやってきたということがあると思うのです。で、琉球弧と東北はその区域の圏外にあって一般的な日本のイメージの外がわに置かれているのではないかと思われるのです。

【　E　】東北という地方について少し考えてみますと、あそこは国はじめの時から征伐ばかりされてきた地方です。たびたびの蝦夷征伐、それに「前九年の役」、「後三年の役」。それから、平泉の藤原氏が何か中央をまねした文化をこしらえかけたところ、それも亡ぼされてしまうし、伊達政宗が出かかってもうまくいかずに⑪ザセツしてしまい、明治維新をむかえるのですが、新政府ができる後先に見舞われたあの「戊辰の役」にしてもやはり一種の東北征伐と見ることができるでしょう。

それともう一つ、この琉球弧が、やはり一種の異端の立場に立たされていると思えるのです。これまで中央の本流に流れこんだことはないし、本土からも何となくちがう場所だという⑫タイグウを受け、そういう考えられ方をし続けてきています。いわばまん中の日本をはさんで、はじっこの東北と、それから琉球弧が、全体の日本の中で、そういう位置を持っているということは、わたしにはなかなか興味深いのです。そのつもりで見ると、この両地域はいろいろな点で似ているところがあるような気がしてくるのも面白いことです。相対的な感じとして、まん中の部分の日本とよりは、両端の二つの地方が似ているというわけです。

ところで、その琉球弧のことですが、琉球弧の歴史と本土のそれとの間に一つの断絶みたいなものが――断絶と言っていいかどうか――みぞができているわけですが、どうしてそういうことになったかということが、わたしにはよく⑬ナットクがいきません。と言いますのは、もし琉球弧が日本全体に何の影響も与えなかったような位置をもっているのなら、それはそれで仕方がないかもしれませんが、実際には非常に深い関係を持っていながら、なおかつ⑭遮断されているものが感じられるからなのです。大雑把な言い方をしますと、日本の歴史の曲り角では、必ずこの琉球弧の方が騒がしくなると言いますか、琉球弧の方からあるサインが本土の方に送られてくるのです。そしてそのために日本全体がざわめきます。それなのに、そのざわめきがおさまってしまうと、また琉球弧は本土から切り離された状態になってしまうという、何かそんな感じがして仕方がありません。

（4）日本の歴史を見る時に目の位置をもう少し高くして、琉球弧もすっかり入るようなところから見てもらうのでなければ、日本の全体像はつかめないのではないかという気がしきりにするのです。

今までは本土と琉球弧の間にはやはりみぞというものがあったことを認めねばなりませんが、しかし、沖縄が置かれている不幸な現実、それは非常に不幸ではありますが、それが一つのきっかけとなって、ある面は今埋まりつつあるという気もします。その場合に、わたしは画一的な日本のイメージを描くのではなく、多様性のある、いわばヤポネシアとしての日本をイメージとしつつ、埋めるべきみぞがあれば埋めなければならないと思っております。琉球弧だとか東北だとかという区切り方は、あるいは正確ではないかもしれませんが、そういういわば異端のような地方をも深くかかわらせるの

でなければわたしの日本のイメージは浮かんでは来ないのです。

（島尾敏雄「ヤポネシアと琉球弧」『島尾敏雄全集　第十七巻』晶文社、一九八三年より。ただし、一部改変した）

問一　＿＿＿＿傍線部①から⑭の漢字にはひらがなで読みをつけ、ひらがなは漢字に直しなさい。

問二　【　A　】から【　E　】にあてはまるものを次のなかから選んで入れなさい。

【　まず　・　しかし　・　つまり　・　そして　・　ところで　】

問三　（1）「どうしてヤポネシアで呼びたいのか」とあるが、その理由として適当なものには「○」、適当でないものには「×」をつけなさい。

（a）ポリネシアやインドネシアなどとは違う意味で使いたいから

（b）世界の中心の国だという意識があるから

（c）大陸の影響のもとにすごしてきたから

（d）日本という画一性から抜け出したいと思っているから

（e）日本の中にいながら日本の多様性を見つけたいから

問四　（2）「わたしにはどうも琉球弧という言い方をするといちばん落ちつくのです。」とあるが、その理由について、文中の言葉を用いながら八〇字程度で説明しなさい。

問五　（3）「多様性を持ったいろいろな地方の中でもことに強く独自性を持った地方が琉球弧であり東北ではないか」とあるが、その理由について、文中の言葉を用いながら一〇〇字程度で説明しなさい。

問六　（4）「日本の歴史を見る時に目の位置をもう少し高くして、琉球弧もすっかり入るようなところから見てもらうのでなければ、日本の全体像はつかめないのではないか」について、あなたの意見や感想を二〇〇字程度で書きなさい。その際、「琉球弧」、「ヤポネシア」の二語を用いること。